

情報処理学会平成5年度功績賞

石井善昭君

いし い よし てる

(昭和3年3月16日生)



石井善昭君は日本電気(株)において永年にわたって、情報処理分野の幅広い領域の研究開発およびその事業化に携わり、数々の優れた成果を挙げられました。特に、コンピュータの創世期において時分割多重制御、自動計算機の演算制御等、オンラインシステムやTSSシステムの基礎技術の分野で多大な研究成果を挙げられ、その技術に基づいて数々の優れた製品を開発・育成しわが国の情報処理技術の発展に大きな貢献をされました。

また(社)日本電子工業振興協会、(財)国際情報化協力センター、(社)事務機械工業会等の業界諸団体の要職を歴任し情報処理産業の発展や国際化において指導的役割を果たしてこられました。

学会活動では、本学会理事、副会長を歴任され、特に学会創立30周年記念事業においては、実行委員会副委員長、出版委員会委員長および財務委員会副委員長として記念事業成功のために尽力される等、学会の発展への功績は誠に顕著であります。

萩原宏君

はぎ わら ひろし

(大正15年6月27日生)



萩原宏君は、情報工学とりわけ計算機アーキテクチャの分野において先駆的かつ独創的な研究業績を多数挙げられ、また教育にも熱心に取り組んで参られました。

特に、計算機制御論理の系統的設計法であるマイクロプログラム方式とそれを発展させたVLIW方式に関する一連の研究は先駆的な研究として国内外で高い評価を受けています。また、計算機設計自動化、計算機システム評価、高級言語処理、データベースシステム、グラフィクス計算機、超並列処理など、計算機アーキテクチャを核とした研究分野で優れた業績を多数残されました。

一方、教育の分野では、京都大学教授として、また同大学ご退官後は龍谷大学教授として、後進の育成と指導にあたられております。特に情報工学の黎明期に著わされた著書「電子計算機通論1,2,3」、「マイクロプログラミン」は古典的名著として特に高い評価を受けております。

さらに、本学会理事、副会長、会長および関西支部長などを歴任され、本学会の発展に多大な功績を残されるなど、情報工学の発展に尽くされた功績は誠に顕著なものがああります。

福村晃夫君

ふく むら てる お

(大正14年1月5日生)



福村晃夫君は、永年にわたり情報処理の広範な分野で数多くの独創的な研究成果をあげられ、この分野における指導的役割を果たしてこられました。昭和20年代わが国の情報工学の揺籃期より、音声情報処理、パターン認識、知識情報処理、計算基礎論などの幅広い分野において優れた研究業績をあげられ、この分野の発展に大きな貢献をされました。

また、計算機科学分野の日米科学技術協力研究の日本側代表として、国内外の研究推進にあたりと共多元知識情報の知的処理と統合化に関する研究の推進にあたり、さらには、人工知能学会を創設しその初代会長としてこの分野の研究の発展と国際化に貢献されました。

一方、教育分野においても、名古屋大学、中京大学教授として、情報工学分野における後進の育成と指導にあたられると同時に、名古屋大学大型計算機センター長として、わが国の大学計算機利用体制、学術情報システムの確立と発展のために尽力されました。

さらに、本学会理事として、また、中部支部の創設と同時に初代支部長として学会の発展に多大の功績を残され、情報処理分野の研究と教育に尽くされた功績は誠に顕著なものがああります。